

令和 7 年度 第3回 山城地方学力向上対策会議 を開催しました！



令和7年度第3回山城地方学力向上対策会議を開催し、「全国学力・学習状況調査」「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」における山城教育局管内小中学校の結果の分析、活用についての報告を行いました。また、他にも11月14日(金)に開催の「山城地方教育実践フォーラム」の運営方法や「山城地方学力向上を目指す教育実践交流会」の実施内容について協議を行いました。

- 1 日 時 令和7年11月4日(火) 午後3時から同5時まで
- 2 場 所 京都府山城教育局 会議室
- 3 出席者 山城地方学力向上対策会議員 25名
- 4 概 要



令和7年度の「全国学力・学習状況調査」「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」の調査結果から、山城教育局管内小・中学校の「令和6年度の授業改善の取組」の検証を行いました。

また、調査結果について、京都府平均値や全国平均値との比較、山城教育局としての経年比、質問紙回答における回答状況等を分析し、成果と課題から、今年度の学力充実・学力向上への手立ての方向性を確認しました。

◆山城教育局 令和7年度 学力・学習状況調査 結果

1.全国学力・学習状況調査

平均正答率

- 小学校6年生国語、算数、理科、いずれの教科も全国平均を上回る。
- ▲ 中学校3年生国語、数学、理科、いずれの教科も全国平均を下回る。

学力層 (全国平均と比較)

- 小学校6年生算数 … B層(正答数10～11問)がやや多く、D層(0～4問)がやや少ない。
- ▲ 中学校3年生国・数 … A・B層(正答数8～14問)が少なく、C・D層(0～7問)が多い。
- ▲ 局経年変化を見ると、国語A層の大幅な減少、B・C層の増加傾向。

2.京都府学力・学習状況調査【学びのパスポート】

- 小学校4～6年生は、令和6年度からの学力の伸び率が、いずれも京都府平均をやや上回る。
- ▲中学校1～3年生は、令和6年度からの学力の伸び率が、いずれも京都府平均をやや下回る。

3.質問調査 (全国学力・学習状況調査 ・ 京都府学力・学習状況調査【学びのパスポート】)

- 「自分によいところがある」「先生が認めてくれる」「学校に行くのは楽しい」等の上昇(全国学調・学パス)
- 各小・中学校の校内研究、授業改善の充実(学校質問)
- ▲「先生が分かるまで教えてくれない」と感じる子の増加(児童生徒質問)

○成果

- ・小学校のいずれも全国平均を上回る。
- ・小学校の伸び率で京都府平均をやや上回る。
- ・非認知能力、心理的安全性の向上

▲課題

- ・中学校のいずれも全国平均を下回る。
- ・中学校の伸び率で京都府平均をやや下回る。
- ・分かるまで教えてもらえないと感じる子の増加

◆調査結果による令和6年度学力向上の取組の検証

令和6年度 授業改善の3つの視点

□主体的な学びとなる単元構想・授業づくり □個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 □学習指導と生徒指導の一体化

◎授業研究を行う学校は年々増加

【学習指導と生徒指導との一体化】

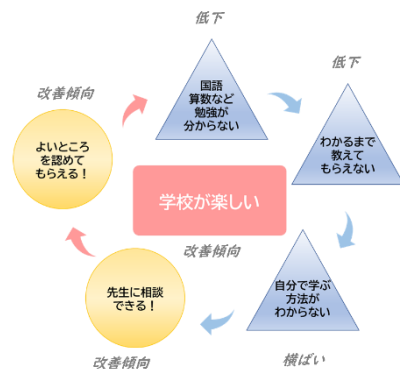
◎いずれの項目でも概ね上昇
特に小学生の回答で上昇

▲「自己決定」に関する項目は
小・中学生ともに低下

▲家庭学習の低下
▲読書時間の低下
▲スマホ時間の上昇

【個別最適・協働的な学び】

○小学校で授業改善が見られる。
○小学生のICT活用が増加
▲小・中学生ともに回答に落ち込み



▲授業が分からない

教えてもらえないと答える児童生徒が急増

【学力値の結果】

○小学校は全国平均を上回る。

▲A層の減少、D層の増加

▲中学校は全国平均を下回る。

▲国・数が2年連続で低下

▲国でA層の大きな減少、C・B層の拡大

【主体的な学び】

○中学校で授業改善が進む。

▲小学生の回答に顕著な落ち込み
特に、「国語が好き」が激減

調査結果を踏まえた今後の方向性についての交流協議

学習指導と生徒指導の一体化	主体的な学びとなる単元構想・授業づくり	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
☐ 生徒指導の4つの視点を生かした授業づくりを引き続き推進。 ☐ 個別最適な学び（自己決定、自己存在感）、協働的な学び（共感的人間関係、安全・安心な風土の醸成）の中で、生徒指導との一体化を促進。	☐ IコマIコマずつの授業づくりから、単元というまとまりでの授業づくりへの転換 ☐ 「やってみたい!」と思える単元の導入、ゴール、問い、見通し、振り返りの工夫 ☐ 基礎基本の確実な定着を図るため、習得と活用のメリハリを効かせた単元デザイン	☐ 個別最適な学びにおいて、校種、学年、実施時期、子どもの実態に応じた、適切な主体のレベルを把握・共有し、段階的に進める。 ☐ 協働的な学びにおいて、A層～D層がともに高め合い、学びを深められる意図的な授業展開の推進と、必然性をもったICTの効果的・意図的な利活用。

◆各グループから出た現状と課題

◇家庭学習時間の不足

- ・家庭学習時間が低下。
- ・校内で仕組みを作っても浸透が不十分。

◇小中連携の重要性

- ・上位層の私学流出で中学校の学力構造が変化。
- ・小中連携を強化し、学びの継続性を確保。

◇働き方改革と授業改善

- ・授業改善の時間確保が難しい。
- ・校内研究は充実しているが、具体的な実践に結びつかない。
- 学年別授業時間の調整で研究時間を捻出できるのではないかな。

◇単元テストの導入

- ・中学校で単元テストへの移行が進む。
- ・単元テスト実施で下位層の学力向上が見られた。
- 定期テストとのバランスが課題。

◇教員のモチベーション向上

- ・モチベーションが上がる仕掛けが必要。
- 校外での研究交流が有効

◇教育概念の浸透不足

- ・「主体的・対話的で深い学び」などの概念が現場に十分浸透していない。
- ・手法が先行し、目的が不明確になるケースあり。
- 体験できる研修で概念理解を促進。
- ・言葉だけでなく、具体的な行動に落とし込む仕組みが必要。

学校や現場の先生方の
悩みも聞きながら、
次年度の方向性を考え
ていきます。

今年度も「山城地方教育実践フォーラム」【令和7年11月14日（金）】を、城陽市立久津川小学校、城陽市立城陽中学校にて開催します。主体的・対話的で深い学びの視点からの単元・授業づくりを通して、参加者は自己の実践を振り返り、自身・自校の課題解決に向けて協働的に学びを深めます。より充実したものとなるよう、学力向上対策会議員は、スタッフ及びオブザーバーとして参加者の学びをサポートします。